

# 第7節 重要文化的景観を構成する景観構成要素の抽出

## 1 現在の景観形成における重要な景観構成要素

### (1) 鉄輪温泉地区の住民の景観認知における重要な景観構成要素

アンケートとワークショップを通して鉄輪温泉地区において住民の視点から以下の要素と要素に対する評価内容が抽出された。

表10.7.1 鉄輪温泉地区で住民に抽出された景観構成要素（回答者数は評価内容欄数と一致）

景観群の解釈	カテゴリー	要素	評価内容
自然要素	湯けむり	湯けむり	いろいろな場所から見た、湯けむりの風景がよい 迫力がある 溝からの湯けむりは雰囲気が良い 溝から出ていて他にはないおもしろい風景である 湯けむりが垣間見えて良い
		蒸気のタンク	歴史背景や、どのようにして住民がタンクを管理しているかを知ってもらえば、一見汚いものも良いものへと変化する
	植物	緑	緑があると風景が生きてくる
		彼岸花	花のある風景が美しい
		大黒屋フーゲンボリア	温泉で成長した植物は色鮮やかで良い
	宿泊施設	檜	檜のある風景美しい(観光地なのに畑がある風景が面白い)
		富士屋	重要文化財に指定されている。(古い民家を再生)白壁、木製壁の雰囲気が非常に良い 歴史的で良い。キンモクセイの花がきれい
		大黒屋	外にある地獄釜が良い。住民にとって当たり前である風景がメディアにとっては新鮮なものであったりする
		三晃	建物がセットバックされていて、雰囲気が良い
		サカエ屋	新築であるが、良いHOPE賞をとっている
若桜荘		雰囲気が良い	
温泉閣		昔寺まわりをしていた人に宿を提供していた。歴史が感じられる	
新田のホテル、旅館		「新しい」、「古い」の調和	
温泉		むし湯	遠景から見た風景も良い むし湯の白壁、木製壁、石畳の雰囲気が良い
		上人湯	HOPE賞をとったデザイン。デザインが良い 植栽升があるのがよい。一これからもっと増やせばよい
	谷の湯	住民の方に人気がある	
	地獄原温泉	入り口前のレイアウトが良い(ベンチ、石碑)	
温泉跡	熱の湯裏、昔の温泉	体質に合わせて作られていた温泉。修繕される予定。他に見ることのできない面白いものである	
	旧むし湯	歴史に残るもの、佇まいが良い	
	旧滝湯	昔使われていた湯、趣がある。鉄輪の歴史背景を知ってほしい	
	洗濯場	歴史的なもの。この温泉で洗うと漂白作用がある	
人工要素	地獄蒸し釜	地獄蒸し釜	情緒豊かであり、良い 昔、住民や旅館に泊まる人々にひらかれていた。道にある地獄蒸し釜は雰囲気があって良かった 通り沿いに見えるのが良い
		大谷公園の石碑	鉄輪の歴史・文化を学ぶことができる。集会所としても使われている
	石碑	石碑	鉄輪で行われているイベントの様子がわかって良い
		俳句の石碑(神社)	詩の内容に共感
	道	石畳	昔は上から下までつながっていた。非常に趣がある。美しい風景である
		むし湯の石畳	石畳の雰囲気が良い(みゆき坂とリンクしている)
		道	裏路地の雰囲気は良い
		狭い道	裏路地散歩に良い
		小道	明るい
	店舗	みゆき坂	明るく見えるようになった
坂		きれいなビスタ景観で見ることができる	
まさ食堂		鉄輪に昔からある食堂。住民に人気がある	
寺社	湯あみ堂	いい匂いがする。昔ながらの鉄輪の風景がわかる	
	安楽屋	木枠の窓ガラスが良い	
川	永福寺	寺の景観が良い。ひなびた温泉地の雰囲気が良い	
	半田川	迫力があってよい 上から見通せる。	
看板	平田川	温泉の水が流れていて珍しい	
	看板	ツタがきれいにからまっている 鉄輪らしい 便利でよい	
その他	石垣	石垣	美しい。雰囲気が良い 美しい
		門	古くて雰囲気が良い(でも、隣の電柱が良くない)
	橋	ツタがきれいにからまっている	
	金龍地獄	一番温泉の効力を出しているのかもしれない。高い建物のバランスが良い	
	俳句筒	鉄輪で行われている俳句イベントにつながっている	
	旅館の湯を入れる竹	鉄輪独自の歴史がわかり、おもしろい	
	湧水(温泉)	せっかくの湧水なので活用したい	
	おじぞう様	歴史を感じることができ、良い(お湯が良く出るようにお祈り)	
	ほけ封じ観音	鉄輪の歴史を感じることができる	

鉄輪温泉地区の住民による要素の評価傾向をみると、湯けむりを評価した回答者の数が最も多く、次いで地獄釜、共同温泉と温泉に関連した要素が高く評価される傾向にあることがわかる。

また、住民は旅館や店舗や看板等の地域の生活や生業に関係した要素も評価していることがわかる。

(2) 明礬温泉地区の住民の景観認知における重要な景観構成要素

アンケートとワークショップを通して明礬温泉地区において住民の視点から以下の要素と要素に対する評価内容が抽出された。明礬温泉地区の住民による要素の評価傾向をみると、湯けむりを評価した回答者の数が最も多く、次いで湯の花小屋、共同温泉と温泉に関連した要素が高く評価される傾向にあることがわかる。

明礬温泉地区住民は旅館や店舗等の地域の生活や生業に関係した要素に加え、瀧蒸浴場施設記念碑や湯の花製造所の石製門等の歴史的価値のある要素を評価した。

表10.7.2 明礬温泉地区で住民に抽出された景観構成要素（回答者数は評価内容欄数と一致）

景観群の解釈	カテゴリー	要素	選定理由
自然要素	湯けむり	湯けむり	自然に地面から出てきていることが良い
			色の特異性、成分の濃さ
			黄色が特殊で明礬らしい
			自然に出てきているところが良い
			未記入
			昔からどこもかしこも出ている
			明礬らしい
			崖や道端等、どこからでも出ているのは明礬らしい
			昔は2つあった、昔は周りが旅館
			昔からある、建物に釘を使用していない、住民自ら修理出来るよう作りを簡単にしている
人工要素	共同温泉	神井泉	家のお風呂が無かった時は皆が来ていた
			組合員以外は入れないというのが特徴的、八軒湯
		鶴寿泉	昔はもっと大きかった
			明礬特有の硫黄の濃度のお賽銭の10円玉が錆びる
	湯の花小屋	湯の花小屋	家の風呂のかわりに使っていた
			女性が肌をきれいにするために入っていた、湯を飲むと胃腸に効く
			浴槽がきれい、建物は新しい、湯が透明できれい
			昔はロシア人が来ていた
	宿泊施設	岡本屋旅館	鳥の「鶯」に由来している(伝説?おとぎ話?)
			家の風呂のかわりに使っていた
		山田屋旅館	皮膚病に効く、湯が詰まって閉鎖
			一番古い
			家の風呂のかわりに使っていた
			明礬地区に溶け込んでいる
		湯の里	明礬地区に溶け込んでいる
			これが無くては明礬ではない
湯の里		他の土地には無い	
		歴史がある	
		建物がある	
		明礬に欠かせない(旅館全体に対して)	
湯の里	火事の前と同じ建物		
	明礬に欠かせない(旅館として)		
湯の里	明礬に欠かせない(旅館として)		
	明礬に欠かせない(旅館として)		
湯の里	特産品の販売(明礬地区特有)		
	特産品の販売(明礬地区特有)		
湯の里	たきゆの跡の石塔		
	瀧湯のあと		
湯の里	瀧湯と蒸湯の歴史を物語る		
	岡本屋さんが詳しい		
湯の里	脇屋の石垣、古い		
	未記入		
湯の里	大正時代からある、一番古いのでは		
	昔は皆で共有していた		
湯の里	昔からいろんなところにあり、ここで人々が交流していた		
	古い		
湯の里	大正・明治頃からある		
	明礬地区の硫黄成分の濃さを表している		
湯の里	明礬ならではの		
	普通の電柱はコンクリートだから		
湯の里	茅葺き屋根		
	昔はたくさんあった		
湯の里	硫黄で錆びてしまうので釘を使っていない(神井泉)		
	明礬大橋		
湯の里	明礬の象徴		

### (3) 明礬温泉地区の外来者からみた重要な景観構成要素

タウンウォッチングを通して外来者の視点から以下の要素と要素に対する評価内容が抽出された。

外来者による要素評価の傾向をみると、湯の花小屋を評価した回答者が最も多く、他の要素と比べると、評価した回答者の数に差が出ていることから、湯の花小屋は明礬温泉地区の顔であると考えられる。その他、湯けむり、共同温泉等温泉関連の要素が評価された。

表10.7.3 明礬温泉地区で外来者に抽出された景観構成要素（回答者数は評価内容欄数と一致）

景観群の解釈	カテゴリー	要素名	選定理由	
自然要素	湯けむり	湯けむり	別府といえば温泉！温泉の象徴だから	
			明礬らしい	
			明礬が付いているのがいいですね	
			明礬というより別府らしい	
人工要素	共同温泉	神井泉	明礬らしさを感ずるから	
		木目		
		鶴寿泉	組合専用の温泉、温泉が生活になじんでいるかんじがする	
		鶴寿泉	景観に溶け込んでいる	
	湯の花小屋	湯の花小屋	鶴寿泉	この土地ならではのものだから
			地蔵泉	古い
			明礬のランドマーク	
			この土地ならではのものだから	
			明礬ならではの	
			明礬の象徴	
			明礬らしい	
			狭さが良い	
			この土地ならではの	
			明礬といえば湯の花小屋	
	地獄釜	地獄釜	さわりたくなる注意書き	
	その他	地蔵	地蔵	古めかしくて良い
				かわいらしかったので
		その他	瀧蒸浴場施設記念碑	市が作ったものではなく地域の人がつくったよう、明治
			湯の花製造所の門	明礬が湯の花をつくっていることを知らせる
			硫黄で錆びた電柱	明礬らしい
木製電柱			木の素材が良い	
茅葺き屋根			昔からありそう	
茅葺き屋根			素材が懐かしい	
明礬大橋			明礬の景観が途切れている	
小さな古びた橋			おもむきがある	
木製柵・手すり			木の質感が良い	
木製消火器具入れ			景観に溶け込んでいる	
木製ベンチ			昔ながら	
のぼり			かすれた感じが良い	
木製看板			年輪がすごい、木そのままのベンチ	
			木そのものがよい、原形を生かしている	
	古びた感じ			
	手書きできれいな字とふるぼけた感じ			
	地元の人の為のものだから			

## 2 対象地域の土地利用と要素分布の関係

### (1) 土地利用の現況

〈概要〉

鉄輪・明礬温泉地区において、重要文化的景観の基盤となる土地が実際どのように利用されているのかということ把握し、それぞれの地区の特性をつかむため、土地利用の実態調査を行った。

その調査をもとに GIS を利用して土地利用図を作成し、考察する。ここで、別府市役所教育庁生涯学習課に示された地番・地目データにより、対象エリアには23の地目のうち13の地目の土地が存在することがわかった。現地の下見を行った上で、存在する13の地目に対応させて、24の土地利用項目を設定した。

表10.7.4 地目と土地利用

土地利用	地目※1	概要※2
田	田	農耕地で用水を利用して耕作する土地
畑	畑	農耕地で用水を利用しないで耕作する土地
住宅	宅地	建物の敷地及びその維持若しくは効用を果たすために必要な土地
宿泊施設		
店舗		
店舗併用住宅		
公共温泉施設		
民間温泉施設		
医療施設		
公民館	学校用地	校舎、附属施設の敷地及び運動場
	鉄道用地	鉄道の駅舎、附属施設及び路線の敷地
	塩田	海水を引き入れて塩を採取する土地
鉱泉地	鉱泉地	鉱泉(温泉を含む。)の湧出口及びその維持に必要な土地
池沼	池沼	かんがい用水でない水の貯留地
山林	山林	耕作の方法によらないで竹木の生育する土地
	牧場	家畜を放牧する土地
原野	原野	耕作の方法によらないで雑草、かん木類の生育する土地
墓地	墓地	他人の遺体又は遺骨を埋葬する土地
寺社	境内地	境内に属する土地であって、宗教法人法(昭和26年法律第126号)第3条第2号及び第3号に掲げる土地(宗教法人の所有に属しないものを含む。)
	運河用地	運河法(大正2年法律第16号)第12条第1項第1号又は第2号に掲げる土地
	水道用地	専ら給水の目的で敷設する水道の水源地、貯水池、ろ水場又は水道線路に要する土地
水路	用悪水路	かんがい用又は悪水はいせつ用の水路
	ため池	耕地かんがいの用水貯留地
	堤	防水のために築造した堤防
	井溝	田畝又は村落の間にある通水路
	保安林	森林法(昭和26年法律第249号)に基づき農林水産大臣が保安林として指定した土地
公衆用道路	公衆用道路	一般交通の用に供する道路(道路法(昭和27年法律第180号)による道路であるかどうかを問わない。)
公園	公園	公衆の遊樂のために供する土地
湯の花小屋	雑種地	以上のいずれにも該当しない土地
駐車場		
空き地		
地獄		
その他		

：鉄輪温泉地区・明礬温泉地区の対象エリアには存在しない地目

※1 地目：不動産登記規則第99条より引用  
 ※2 概要：不動産登記事務取扱手続準則第68条より引用

〈調査結果〉

各対象地区の土地利用項目ごとの筆数、筆の面積の和、各対象地区の面積における土地利用項目ごとの筆の面積の割合を表10.7.5に示す。

また、各地区のGISを用いて作成した土地利用図を、図10.7.1に示す。

表10.7.5と図10.7.1より考察する。表10.7.5より、筆の面積の割合が上位4位までの土地利用項目について考察していくが、両地区とも挙げられた土地利用項目である「宿泊施設」については、その規模の大きさが、観光地である両地区のそれぞれの特性を示す一つの指標となる可能性を考慮したため、筆の平均面積を計算し比較している。一方、両地区で挙げられた土地利用項目である「住宅」「山林」については、規模の大きさという概念が、不必要であると考え、筆の平均面積は比較していない。

表10.7.5 土地利用項目地区別一覧

土地利用項目	鉄輪温泉地区			明礬温泉地区		
	筆数	面積(m <sup>2</sup> )	割合	筆数	面積(m <sup>2</sup> )	割合
畑	21	10314.97	3.01%	5	1360.83	1.52%
住宅	278	60704.52	17.74%	64	12737.09	14.19%
宿泊施設	196	52369.06	15.30%	60	10225.37	11.39%
店舗	57	10394.21	3.04%	7	5175.68	5.77%
店舗併用住宅	90	12540.21	3.66%	9	1130.95	1.26%
公共温泉施設	14	1175.92	0.34%	5	436.38	0.49%
民間温泉施設	40	12028.36	3.51%	19	6456.53	7.19%
医療施設	1	961.58	0.28%	0	0.00	0.00%
公民館	1	121.05	0.04%	3	289.77	0.32%
池沼	3	3273.21	0.96%	0	0.00	0.00%
山林	54	45696.89	13.35%	50	26988.74	30.06%
原野	4	147.77	0.04%	15	2665.61	2.97%
墓地	11	967.08	0.28%	0	0.00	0.00%
寺社	15	9415.11	2.75%	0	0.00	0.00%
水路	6	159.87	0.05%	3	131.76	0.15%
公衆用道路	159	13406.62	3.92%	85	6867.82	7.65%
公園	25	12304.20	3.59%	0	0.00	0.00%
湯の花小屋	0	0.00	0.00%	35	8452.24	9.42%
駐車場	159	34596.04	10.11%	13	2089.08	2.33%
空き地	56	10177.68	2.97%	8	2701.99	3.01%
地獄	89	46697.21	13.64%	1	1768.41	1.97%
その他	17	4812.45	1.41%	3	294.37	0.33%
計	1296	342263.99	100.00%	385	89772.60	100.00%
鉱泉地	104	31835.06	9.30%	23	7656.03	8.53%

#### 〈鉄輪温泉地区〉

「住宅」は筆数、面積の合計ともに最大で、地区の17.74%の面積を占め、東部と中央部に多く分布している。

「宿泊施設」は筆数、面積の合計ともに2番目に大きく、地区の15.30%の面積を占め、東部と中央部に多く分布している。また、「宿泊施設」として利用されている筆の平均面積は約267㎡であり、明礬温泉地区より大きい。つまり、規模の大きな宿泊施設が多い傾向にあることがわかる。

「山林」は面積の合計が4番目に大きい。また、地区の13.35%の面積を占め、西部に分布している。

「地獄」は面積の合計が3番目に大きく、地区の13.64%の面積を占め、西部に多く分布している。

#### 〈明礬温泉地区〉

「住宅」は面積の合計が2番目に大きく、地区の14.19%の面積を占め、西部に多く分布している。

「宿泊施設」は筆数、面積の合計ともに3番目に大きく、地区の面積の11.39%を占め、東部に多く分布している。また、「宿泊施設」として利用されている筆の平均面積は約170㎡であり、鉄輪温泉地区より小さく、規模の小さな宿泊施設が多い傾向にあることがわかる。

「山林」は筆数、面積のともに群を抜いて最も大きい。また、地区の30.06%の面積を占め、西部に多く分布している。その面積の合計は鉄輪温泉地区より小さいが、割合は約2.3倍である。

「湯の花小屋」は面積の合計が4番目に大きく、9.42%の面積を占め、西部に多く分布している。これは鉄輪温泉地区には存在せず、明礬温泉地区を象徴する土地利用である。

# <対象エリア 土地利用図>

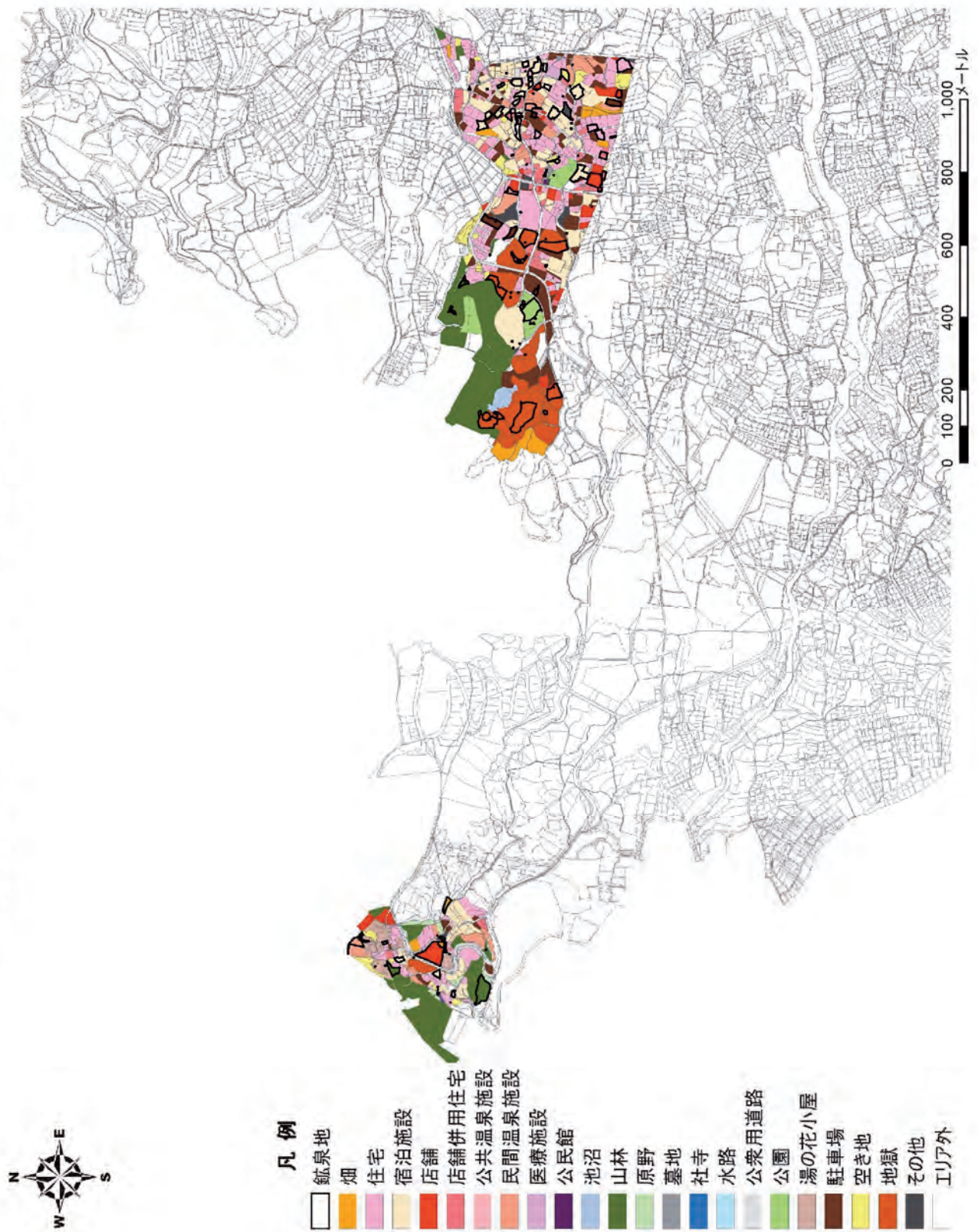


図10.7.1 土地利用現況図

## (2) 景観構成要素（湯けむり）の分布

GISを利用して、重要な景観構成要素の分布図を作成し、重要な景観構成要素ごとに考察した。ここでは「湯けむり」を例に挙げて説明する。

○湯けむり（鉄輪温泉地区、明礬温泉地区）

表10.7.6 地区別湯けむり一覧表

湯けむりのタイプ	機械併設型		タンク型		パイプ型		池・地獄型		釜・その他型		計	
鉄輪温泉地区	45	90.0%	7	100.0%	51	92.7%	26	81.3%	42	44.2%	171	71.5%
明礬温泉地区	5	10.0%	0	0.0%	4	7.3%	6	18.8%	53	55.8%	68	28.5%
計	50	100.0%	7	100.0%	55	100.0%	32	100.0%	95	100.0%	239	100.0%



図10.7.2 鉄輪温泉地区の湯けむり



図10.7.3 明礬温泉地区の湯けむり

現地調査により、対象地区内には湯けむりが239ヶ所あること、湯けむりには大小様々な規模があり、それぞれ噴気孔の形状により、機械併設型、タンク型、パイプ型、池・地獄型、釜・その他型の5つのタイプがあることがわかっている。

表10.7.6より、湯けむりのタイプ別にみると、釜・その他型（95か所）、パイプ型（55か所）、機械併設型（50か所）、池・地獄型（32か所）、タンク型（7か所）の順に多く、地区別にみると、鉄輪温泉地区（171か所）、明礬温泉地区（68か所）という結果になった。

鉄輪温泉地区は、パイプ型（51か所）や機械併設型（45か所）が多く、遠くからでもわかる比較的大きな湯けむりが多いということがわかった。また、明礬温泉地区は、釜・その他型（53か所）のみが鉄輪温泉地区より多く存分布している。釜・その他型は、同地区の湯けむりの約78%を占めており、地区特有の湯の花小屋からの湯けむりが大多数を占めていることがわかる。

図10.7.4、図10.7.5に湯けむりの分布を表す。図10.7.4より、鉄輪温泉地区において、湯けむりの総数は、西部、東部（ともに61か所）、中央部（49か所）の順に多い。機械併設型は中央部（18か所）、タンク型は東部（4か所）、パイプ型は東部（21か所）、池・地獄型は西部（22か所）、釜・その他型は東部（19か所）に最も多く分布している。

また、図10.7.5より、明礬温泉地区の湯けむりの総数は、西部（43か所）、東部（25か所）の順に多い。機械併設型は東部（3か所）、パイプ型は西部（4か所）、池・地獄型は西部（6ヶ所）、釜・その他型は西部（31か所）に最も多く分布している。タンク型は分布していない。

< 鉄輪温泉地区 湯けむり 分布図 >

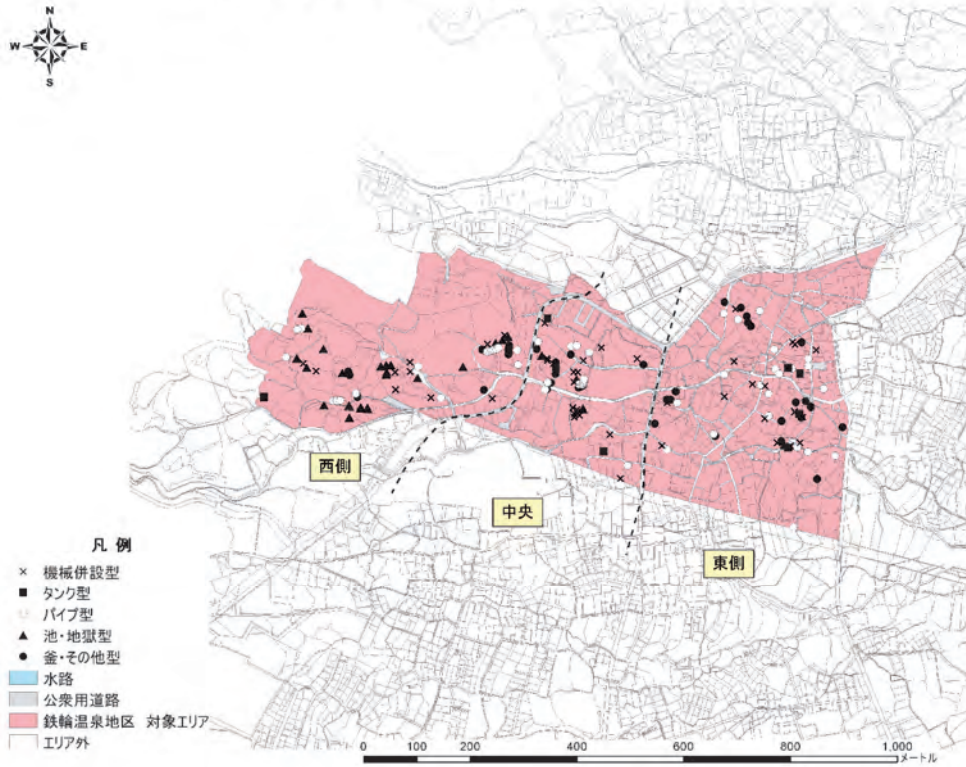


図10.7.4 鉄輪温泉地区の湯けむり分布図

< 明礬温泉地区 湯けむり 分布図 >



図10.7.5 明礬温泉地区の湯けむり分布図



### (3) 土地利用と景観構成要素分布の関係性

前項で示した土地利用図と重要な景観構成要素の分布図を照らし合わせて、重要な景観構成要素ごとに考察し、土地利用と景観構成要素分布の関係性をみる。

#### ○ 湯けむり（鉄輪温泉地区、明礬温泉地区）

図10.7.4より、鉄輪温泉地区の中央部と東部に機械併設型等の規模の大きな湯けむりが多く分布しており、「宿泊施設」「住宅」と大型の湯けむりの分布に関係があることが推察できた。地獄に特化した西部には池・地獄型の湯けむりが多いことも明らかとなった。図10.7.5より、明礬温泉地区における湯けむりは小規模な釜・その他型が多く、その分布は「湯の花小屋」の分布とほぼ一致していることがわかった。両地区とも湯けむりの分布と「宿泊施設」「地獄」「湯の花小屋」といった観光産業等の生活・生業に関連した土地利用分布が関係していることが明らかとなった。鉄輪温泉地区は「宿泊施設」による大規模で数の多い湯けむりの分布が、明礬温泉地区は「湯の花小屋」等による規模の小さな原始的な湯けむりが分布する傾向にあることがわかった。

## 3 重要文化的景観を構成する景観構成要素

鉄輪、明礬温泉地区のタウンウォッチングとアンケート、ワークショップを通して抽出された54要素と、並行して実施された歴史調査により抽出された60要素をもとに今後重要文化的景観構成要素となり得る要素の選定作業を行う。2009年2月3日と4日に分けて総勢9名の研究スタッフによりシャレットを行った（図10.7.6）。

全114要素の写真と、当該要素の歴史性を一件ずつ判断し、以下の2つの価値（①、②）のいずれかを有するものを重要な景観構成要素として選出した。

- ①「住民の生活・生業に関係している」
- ②「当該地域の歴史を示す上で重要である」

また、現状のままでは重要な文化的景観構成要素とは言い難いが、③「今後改善・活用の必要がある」として挙げられた要素もあり、今後の保存活動の在り方によっては保存対象となり得ると考えられる要素として選出した。

選出された96要素のうち、外来者と住民どちらにも評価された要素は27あり、外来者と住民が評価する要素の一致率は29%であった。



図10.7.6 シャレット風景写真

(1) 鉄輪温泉地区の重要な景観構成要素

シャレットにより選出された鉄輪温泉地区の重要な景観構成要素の表を以下に示す。

鉄輪温泉地区の重要な景観構成要素として66要素が抽出された。外来者と住民の評価傾向は似ているが、樹木を高く評価したのは外来者であり、旅館を評価したのは住民のみであることがわかる。住民と外来者どちらにも評価された要素の一致率は24%であった。

表10.7.7 鉄輪温泉地区の重要な景観構成要素

鉄輪									
景観群の解釈	関連要素	名称	選考要素		生活・生業と関係のあるもの	歴史的に重要なもの	改善・活用が必要なもの		
			外来者	住民					
自然	地形	山		○					
		河川		○					
	植物	樹木	富士屋のウスギモクセイ	○			○		
			永福寺の楠	○					
			大谷公園の楠	○					
			みなとや裏のイチヨウ	○					
			大黒屋のブーケンビリア	○	○				
	自然現象	蒸気	湯けむり	○	○	○			
		地獄	海地獄				○		
	人工	温泉(共同)	地獄原温泉	○	○	○	○		
渋の湯			○		○	○			
上人の湯			○	○	○	○			
筋の湯			○		○	○			
谷の湯			○	○	○	○	○		
熱の湯			○		○	○	○		
蒸し湯			○	○	○	○			
温泉(民間)			ひょうたん温泉	○		○	○		
建造物			旅館	誠天閣			○	○	
				アサヒヤ			○	○	
		アサヒヤ旅館				○	○		
		つるや				○	○		
		大黒屋				○	○		
		萬力屋				○	○		
		国東荘				○	○		
		双葉荘				○	○		
		さくら屋				○	○		
		しんきや				○	○		
		みかさや				○	○		
		神力屋				○	○		
		満寿屋				○	○		
		サカエ家				○	○		
		陽光荘				○	○		
		辰巳屋				○	○		
		中野屋				○	○		
		富士屋			○	○	○		
		みなとや				○	○		
		築新				○	○		
上富士屋				○	○				
温泉閣			○	○	○				
みどり屋				○	○				
寺社		西福寺					○		
		湯乃徳稲荷					○		
		温泉神社					○		
		温泉山永福寺		○			○		
その他		安楽屋		○			○		
道		道路	石畳	○	○		○		
設備		遺構	渋の湯の滝湯跡	○	○	○	○	○	
			洗濯場	○	○	○	○	○	
			熱の湯の湯元跡	○	○	○	○	○	
			蒸し湯跡	○	○	○	○	○	
			永福寺再興之碑	○			○	○	
			大谷光瑞氏碑		○		○		
			光瑞上人五十回忌祈念碑	○	○		○		
		元湯跡石碑	○			○			
	吉賀循環器・内科前の石柱	○				○			
	地獄	鬼石坊主地獄					○		
		鬼山地獄					○		
		かまど地獄					○		
		山地獄					○		
	蒸気	地獄釜	○	○	○	○			
		湯けむり装置	○	○	○	○			
障壁	別府石の石垣	○	○		○				
	地藏・薬師像	○	○	○	○				
その他	いでゆ坂アーチ	○			○	○			

(2) 明礬温泉地区の重要な景観構成要素

シャレットにより選出された明礬温泉地区の重要な景観構成要素の表を以下に示す。

明礬温泉地区の重要な景観構成要素として30要素が抽出された。外来者と住民の評価傾向は似ているが、旅館を評価したのは住民のみであることがわかる。住民と外来者どちらにも評価された要素の一致率は36%であった。

表10.7.8 明礬温泉地区の重要な景観構成要素

明礬								
景観群の解釈	関連要素	名称	選考要素		生活・生業と関係のあるもの	歴史的に重要なもの	改善・活用が必要なもの	
			外来者	住民				
自然	地形	山	山	○				
		河川	河川					
	自然現象	蒸気	湯けむり	○	○	○		
地獄		明礬地獄			○			
人工	建造物	温泉(共同)	神井泉	○	○	○	○	
			地蔵泉	○	○	○	○	
			鶴寿泉	○	○	○	○	
		旅館・貸間	岡本屋		○	○	○	○
			えびす屋		○	○	○	○
			豊前屋		○	○	○	○
			山田屋		○	○	○	○
			湯元屋		○	○	○	○
			大和屋		○	○	○	○
		橋	すい荘		○	○	○	○
	明礬大橋		○	○				
	その他	公民館	○	○		○	○	
	人工	遺構	湯の花組合事務所・倉庫跡		○		○	○
			地蔵泉の滝湯跡				○	
			薬師湯の滝湯跡				○	
瀧蒸浴場施設記念碑			○	○		○		
湯の花組合創立記念碑						○		
湯の花製造所の石製門			○	○		○		
地獄釜			○	○	○	○		
蒸気		湯けむり装置	○	○				
		配管	○					
		湯の花小屋	○	○	○	○		
その他		障壁	別府石の石垣		○		○	
		その他	地蔵・薬師像	○		○	○	
			板張り・鎧張り	○		○		
			明礬停留所石柱				○	○

## 4 要素の歴史的背景

抽出した「重要文化的景観構成要素」の歴史的価値および生活生業への関連性を整理し、その概要を本項で示す。

【自然要素】 → 【景観群のカテゴリー】 → 【関連要素】 → ○名称

【人工要素】 → 【景観群のカテゴリー】 → 【関連要素】 → ○名称

なお、紙面の都合上、本節では両地区とも、自然要素と人工要素それぞれ1要素を例示する。

### (1) 鉄輪温泉地区の重要文化的景観構成要素概要

【自然要素】

【自然現象】

【蒸気】

○湯けむり



図10.7.7 鉄輪地区の現在の湯けむり（湯けむり展望台より撮影）

昭和23年に施行された温泉法により、温泉地に関する規制が進み、ボーリング技術が発達する中、泉源の豊富な鉄輪温泉地区においても温泉の掘削作業は進められた。ボーリングによる温泉の掘削作業が同地区において本格的に始まったのは昭和40年前後。この期間に多数の湯けむり装置が設置され、現在の鉄輪湯けむり景観の原型が生まれたと考えられる。また、「原風景形成期間」と現在の全景写真を見比べると、前者の湯けむりの数は少なく、後者は写真で確認できるものでも、かなりの数が上がっており、鉄輪温泉地区

景観の象徴となっている。なお、「原風景形成期間」の湯けむりは、地獄等の温泉観光施設などから吹き上がる自然現象による湯けむりのみで構成されていると考えられる。

【地獄】

明治末期、宇都宮則綱が千寿吉彦から海地獄を借受け、地獄見料を取り始めたのが地獄の起因である。そして、血の池地獄・坊主地獄を誘ってエンマ会を組織、これが地獄組合の前身となった。のちに人気の中心となる海地獄ですらその所有者は四転しており、お荷物の地獄が売れたとして祝宴が張られたという記録がある。

大正時代より自動車の便が開け、昭和に入ると遊覧バスも運転され、地獄遊覧客の数は年々増加した。入場料徴収は地獄所有者に莫大な収入をもたらし、地獄遊覧事業はすこぶる有望視され、小噴気孔を掘削して大噴出を誘導することに努め、大正から昭和にかけて、これまでの天然地獄の他に新しい地獄が噴出した。

○海地獄

現在鉄輪温泉地区内に存在する7つの地獄の中でもっとも古い歴史をもつ海地獄は明治43年（1910）に遊覧施設などを整えて開園した。海のように青い湯をたたえる海地獄は観光客が絶えず、地獄の人気を中心となった。



図10.7.8 現在の海地獄



図10.7.9 「原風景形成期間」に撮影された海地獄写真（出典：鉄輪絵葉書）

### ○白池地獄

昭和6年（1931）に開園。乳白色の池。噴出時は透明な温泉であるが、地におち温度と圧力が低下することにより、青白色になる。園内には温泉熱利用の熱帯魚館があり、アマゾンの大王魚（ピラルク）や人喰魚（ピラニア）などの熱帯魚を飼育している。県指定の文化財の国東塔（南北朝時代（約600年前作））や向原石幢（永禄3年（1560）作）を所有している。



図10.7.10 現在の白池地獄



図10.7.11 「原風景形成期間」に撮影された白池地獄写真（出典：鉄輪絵葉書）

【人工要素】

【建造物】

【共同温泉】

鉄輪温泉地区の起源となったとも考えられる温泉。現在同地には7つの共同温泉がある。

○渋の湯温泉



図10.7.12 現在の渋の湯

有命湯、生き湯、上渋の湯とも呼ばれる。建治2年（1276）一遍上人が開発したと伝えられる温泉の一つ。『新撰南豊温泉記』によると、日頃の湯の色は青濁色だが、雨雪の前日は必ず淡濁黒色に変化するという。また、春、秋の彼岸の中日及び湯浴み祭の当日は、白濁色に変化する。よって、「生き湯」と呼ばれる。明治7年（1874）鶴見村と鉄輪の合併を機に、明治8年（1875）3月に渋の湯建物が新築された。明治14年（1881）の大分県統計表には年間浴客約7,500とあり、盛んに利用されていたことが伺える。明治28

年（1895）渋の湯そばに新湯が開設。新湯は「上渋の湯」と名付けられ、昔ながらの渋の湯は「下渋の湯」と呼ばれるようになった。大正中期に改築され、昭和10年（1935）の朝日村と別府市が合併した翌年4月2日に上渋の湯、上熱の湯、共に市営温泉となる。しかし戦後、隣接する2つの市営温泉を維持することが困難になり、市役所の方針により「下渋の湯」の取り壊しが発案されるが、住民の努力により「下渋の湯」を「元湯」と改名し、区営温泉とした。

この頃から「上渋の湯」は「渋の湯」と呼ばれるようになり、実質、建治2年からつづく渋の湯は明治28年に新築された新湯と入れ替わったことになる。昭和33年（1958）に木造から鉄筋コンクリート造に改築。現在の建物は、平成10年（1998）に改築されたもので、鉄筋コンクリート造であるが、木質の良さを取り入れた和風建築で、町並みにマッチしていると住民の声が上がっているが、板張りで造られた外観は原風景



図10.7.13 「原風景形成期間」に撮影された渋の湯写真（出典：鉄輪絵葉書）

時期の建物形状とは異なっており、改善の余地があると考えられる。入浴料は無料。地元住民、観光客に親しまれ、入湯客が絶えず訪れている。また、区営温泉として管理していた「下渋の湯」と「元湯」は地域間での維持管理が困難となり、平成18年（2006）に取り壊された。

## ○富士屋



図10.7.14 現在の富士屋

建の建物は今日に到るまで使用されており、平成13年国登録有形文化財となった。当時の形状を維持したまま、改修工事も行われており、現在はギャラリーとしても使われている。重要文化的景観構成要素として大変重要な建造物である。

明治27年（1894）創業の古い歴史を持つ旅館。明治31年に新築された。新築の家屋、施設、別府港の眺望のすばらしさから、当時の新聞の人気旅館投票で1位に選ばれている。戦後は国から傷痍軍人の収容場所に指定され、とりわけ富士屋本館は将校専用の仮病棟になっていた。また、終戦直後から旅館の形状が変化していないことが文献により判明しており、原風景時期から建物形状を保ち続けている希少な旅館である。木造2階



図10.7.15 大正5年に撮影された富士屋  
（出典：鉄輪絵葉書）

## （2）明礬温泉地区の重要文化的景観構成要素概要

【自然要素】

【地形】

【河川】

## ○とび川

薬師寺近くの明礬地蔵群の付近から流れる川。とび湯の名称から知られるように、近辺の伝説にちなんで名付けられた河川であると考えられる。



図10.7.16 現在のとび川



## 【自然現象】

### 【蒸気】

#### ○湯けむり

湯の花小屋や地獄釜、共同温泉などの地区の生業に関する湯けむり、または地面から直接噴き出している湯けむりが明礬温泉地区には数多く見られる。主に湯の花小屋から漏れ出す湯けむりは同地区の最大の特徴であり、原風景時期の写真と比較すると、湯の花小屋の棟数の減少に比例し、湯けむりの数が少ないことがわかる。鉄輪温泉地区と比較すると、湯けむり装置の数は圧倒的に少なく、鉄輪温泉地区が遠距離型の湯けむり景観であることに対して、明礬温泉地区は中距離型の湯けむり景観であることが言える。また、原風景時期と比較し湯けむりの数は減少しているものの、湯けむりのあり方はほとんど変化しておらず、明治から大正期にかけての素朴な湯けむり景観を維持していると考えられる。外来者、住民共に、同地区における重要な景観構成要素として湯けむりが上げられている。



図10. 7. 17 明礬地区の現在の湯けむり

【人工要素】

【建造物】

【共同温泉】

○鶴寿泉

寛文年間（1661-1673）に創られた共同温泉。別名「下の湯」。泉源は岡本屋が所有。玖珠藩主久留嶋氏が、この地の明礬製造所を訪れた時、久留嶋氏を迎えるために新たに築造された温泉をみて「鶴寿泉」と命名したといわれている。昭和10年（1935）朝日村が別府市に合併し、市営温泉となる。明治35年（1902）には浴場が整備され、建物は瓦葺き、間口は五間（約9.05m）、大きな畳の広間があり、御殿造りのとても立派な建物で、多くの湯治客が利用していた。また、昭和30年代頃まで、近辺に薬師湯と呼ばれる共同温泉があり、岡本屋をはじめとする明礬メインストリート沿いの下組の旅館群が賑わっていたことが伺える。しかし昭和33年（1958）の旭屋から発生した明礬大火により、当時えびす屋正面に所在していた鶴寿泉は焼けてしまう。昭和37年（1962）に再建され、昭和38年（1963）1月14日に落成されたが、新しく建てられた施設はコンクリートでできた簡易的なものであり、本来の場所からも移動された。移動の要因として、利用客の増加による温泉の拡大の必要性が考えられる。

旧鶴寿泉の跡地は現在駐車スペースとして利用されている。平成8年（1996）に現在の鶴寿泉に建て替えられ、現在も地域内外から入浴客で賑わっている。外観は原風景期間の形状とは異なるものの、明礬地区に数多く見られる板張りで改築されており、歴史的、景観構成要素としても重要な共同温泉である。



図10.7.18 現在の鶴寿泉



図10.7.19 「原風景形成期間」に撮影された鶴寿泉古写真（出典：明礬絵葉書）



図10.7.20 「原風景形成期間」の鶴寿泉の位置（出典：明礬絵葉書）

【旅館・貸間】

○岡本屋



図10.7.21 現在の岡本屋



図10.7.22 「原風景形成期間」に撮影された岡本屋古写真（出典：明礬絵葉書）



図10.7.23 ざぼん風呂

明治22年（1889）創業の古い歴史を持つ旅館。鶴寿泉を中心とする下組に位置する。本屋の屋号は初代岩瀬正綱の出身地竹田の地名からつけられた。下組一帯の旅館が被害を受けた昭和33年（1958）の明礬大火で唯一延焼を避けられた旅館。本業は湯の花製造。江戸時代の文化元年、初代岩瀬正綱（権平）が森藩の飛び地であった鶴見村の明礬に山奉行として派遣され、硫黄採掘や明礬製造にあたった。そして2代目の吉綱（謙吉）は湯の花製造を行うとともに旅館業を始めた。3代目の保彦は湯の花製造者の組合を作って組合長をつとめた。4代目岩瀬清吾は郡会委員をつとめるなど公職でも活躍。大いに商売のアイデアを巡らせ、湯の花の販売拡大や明礬温泉 PR に貢献。以上、明礬温泉地区の発展に力を注いだ歴史をもつ代表的な旅館である。また旅館内には「ざぼん風呂」という、ざぼんを浮かべた温泉があり、現在ではよく見かけるがもともとは明礬地区で多く用いられた。

【設備】

【遺構】

○薬師湯の滝湯跡

明礬下組・鶴寿泉横に所在する石碑。明礬下組・鶴寿泉近くにかつて存在していた「薬師湯」という共同温泉に併設されていた滝湯と蒸し湯を建設した際の記念に建立されたもの。昭和33年（1958）の明礬大火の際は、薬師湯の湯を使って火を消し止めたことから、昭和30年代後期まで薬師湯は存在していたと考えられる。薬師湯跡は現在岡本屋の倉庫になっており、倉庫裏手には滝湯の痕跡が残っている。利用されていた当時は、明礬の温泉は強い酸性であるため、女性たちが油紙を頭にかぶって入浴していた。明礬温泉地区の歴史が何え、文化財としてのポテンシャルを秘めており、遺構として利活用すべきである。



図10.7.24 現在の薬師湯の滝湯跡



図10.7.25 「原風景形成期間」に撮影された薬師湯の滝湯古写真（出典：明礬絵葉書）

## ○湯の花小屋



図10.7.26 湯の花小屋外観



図10.7.27 「原風景形成期間」に撮影された湯の花小屋写真  
(出典：明礬絵葉書)

重要無形民俗文化財指定後は行政からの補助金などにより、維持管理がしやすくなったが、湯の花小屋1棟の吹き替えに170万円程の予算が必要なことや、湯の花小屋職人の後継者不足、原材料の不足など、課題は多い。また、住民の生業にも深く関わりがあり、湯の花小屋でドライフラワーを作る、洗濯物を乾かす等のユニークな光景を見ることができる。住民、外来者共に湯の花小屋の評価は高く、湯けむり装置の少ない明礬温泉地区において、湯けむり景観を構成する中心的な要素であるといえる。今後は湯の花小屋の維持管理に加え、棟数を増加させることが課題である。

寛文11年（1671）幕府に薬種と認められた明礬の製造所を設置、広く製造販売した。このことが地名の由来とされている。しかし支那明礬の普及などにより、明礬製造は不振となる。地域の存続をかけた、明治17年（1885）湯の花製造が発明、開始されたことが湯の花小屋の歴史の始まりである。その後着々と湯の花製造は軌道に乗り、大正期から昭和初期にかけて、湯の花製造は最盛期を迎えた。しかし太平洋戦争の勃発により、湯の花の生産は激減。湯の花小屋棟数も激減した。戦争勃発数年前も、明礬の湯の花からアルミニウムが取れるという話が浮き上がり、湯の花製造が徐々に下火になったという話もある。終戦後、一湯の花治療薬としての需要の増加により生産量が一時増加したものの、医療の発達、科学薬品や入浴剤の発達から、湯の花が売れなくなりさらに湯の花小屋の棟数は減少しつづけた。湯の花を家庭で利用する際に、ハウロウ風呂や五右衛門風呂などを腐食させてしまい、使用客から苦情が寄せられる事もあったという。

しかし、平成18年（2006）国指定の重要無形民俗文化財に指定され、現在は湯の花製造の過程を見学することができる観光施設を設置するなど、湯の花小屋の利活用が進んでおり、明礬温泉地区の観光業の中心となっている

## 5 重要文化的景観地域における目指すべき景観像

最盛期として、鉄輪温泉地区、明礬温泉地区における原風景形成期を導出したが、それらの時期の景観と現状の景観を踏まえ、将来あるべき景観像を導出した（図10.7.28～10.7.35）。

なお、鉄輪温泉地区からは、湯けむり展望台から鉄輪温泉地区を見下ろす眺望景観、永福寺付近いでゆ坂沿いの街路景観を選出した。明礬温泉地区からは、山の湯付近から明礬橋や別府湾、市街地を見下ろす眺望景観、湯の里近くの路地から背景の山とともに湯の花小屋、別府石の塀を見た街路景観を選出した。

### ・鉄輪温泉地区 眺望景観

自然的要素については、住宅地における緑化を促進するとともに、公共空間においても緑地帯の増加を目指す。湯けむりの数は現状を維持し、地獄からの湯けむりには特に保存を心がける。

人工的要素としては、電柱・電線の減少または削除が望まれる。中高層建造物は九州横断道路等大きな道路沿いのみに存在させ、低層建造物は切妻造、陸屋根から寄棟造への変更を推奨する。

### ・鉄輪温泉地区 街路景観

自然的要素については、背景の山々などの緑地帯を維持していく。また、掘削による大規模な湯けむりの数はこれ以上増やさず、現状を維持していく。

人工的要素としては、電柱・電線の減少または削除が望まれる。中高層建造物は九州横断道路等大きな道路沿いのみに存在させ、低層建造物は切妻造、陸屋根から寄棟造へ変更する。その他に石垣の維持や、パーブメントに石畳を用いる。

### ・明礬温泉地区 眺望景観

自然的要素については、地域を囲む緑地帯を維持していく。

人工的要素としては、電柱・電線の減少または削除が望まれる。低層建造物を切妻造、陸屋根から寄棟造への変更、外壁をよろい張りへの変更を推奨し、華美な看板等を控える。また湯の花小屋の増加と、それに伴う湯けむりの増加を推奨する。

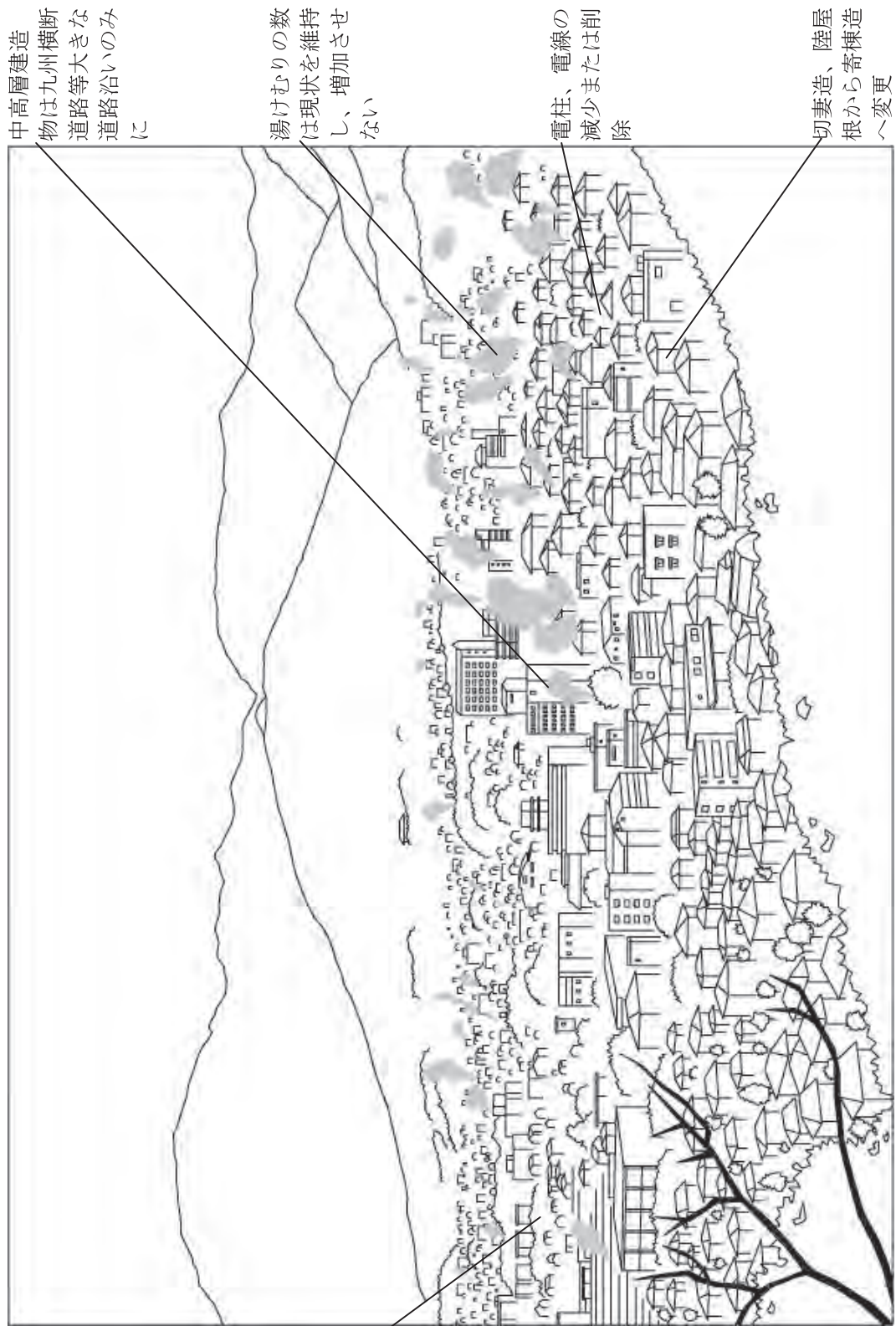
### ・明礬温泉地区 街路景観

自然的要素については、背景の山々などの緑地帯を維持していく。

人工的要素については、電柱・電線の減少または削除が望まれる。湯の花小屋の保存や増加、別府石の石垣の保存を目指す。



図10.7.28 現状景観 眺望景観 鉄輪温泉地区



中高層建造物は九州横断道路等大きな道路沿いのみ

湯けむりの数は現状を維持し、増加させない

電柱、電線の減少または削除

切妻造、陸屋根から奇棟造へ変更

公共空間における緑地帯の増加

宅地における緑化の促進

図10.7.29 目指すべき景観像 眺望景観 鉄輪温泉地区





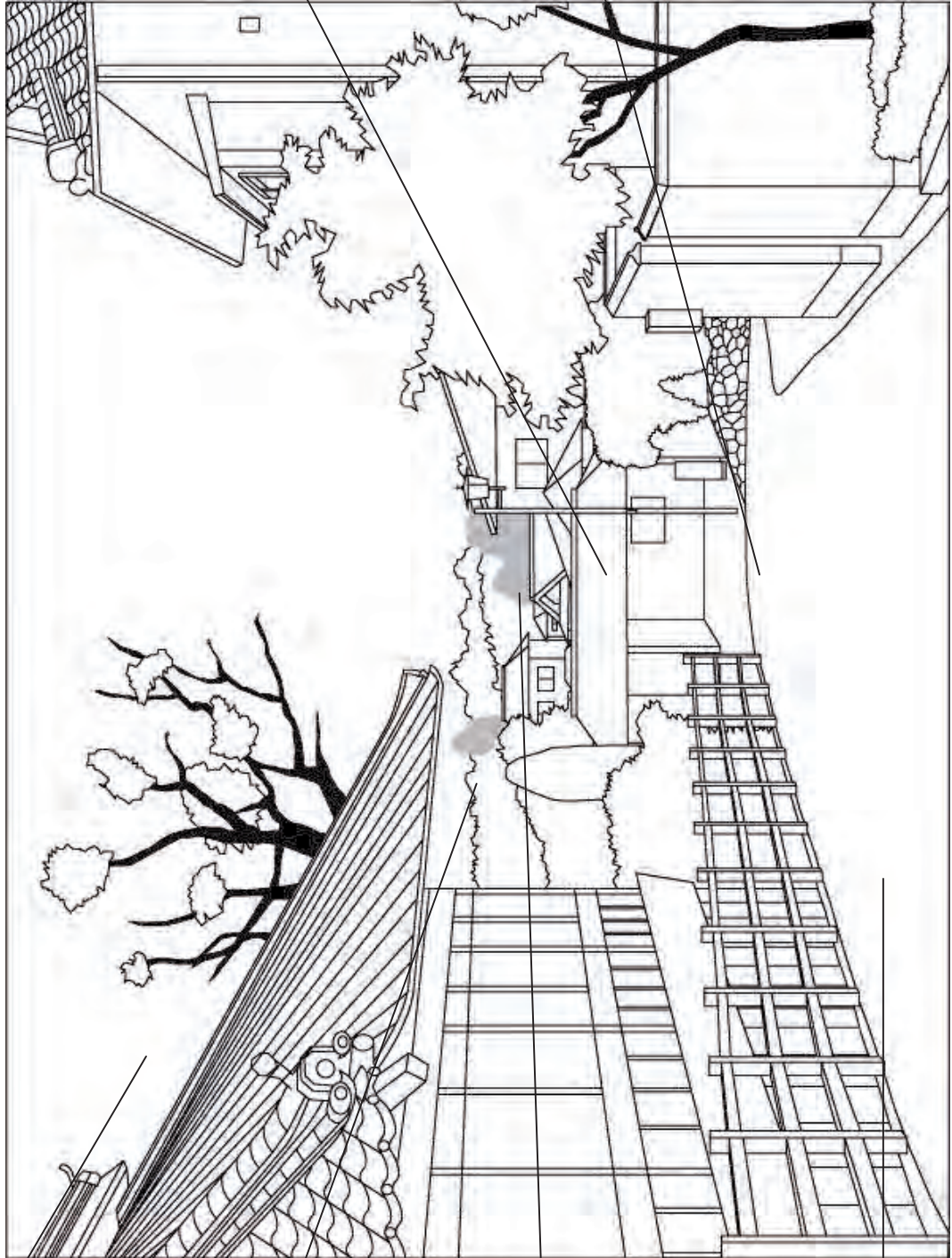
图10.7.30 现状景观 街路景观 铁轮温泉地区

中高層建造物は大きな通り沿いのみに

背景の緑地帯の維持

湯けむりの数は現状を維持し、増加させない

ペープメントは石畳に



石垣の保存

図10.7.31 目指すべき景観像 街路景観 鉄輪温泉地区



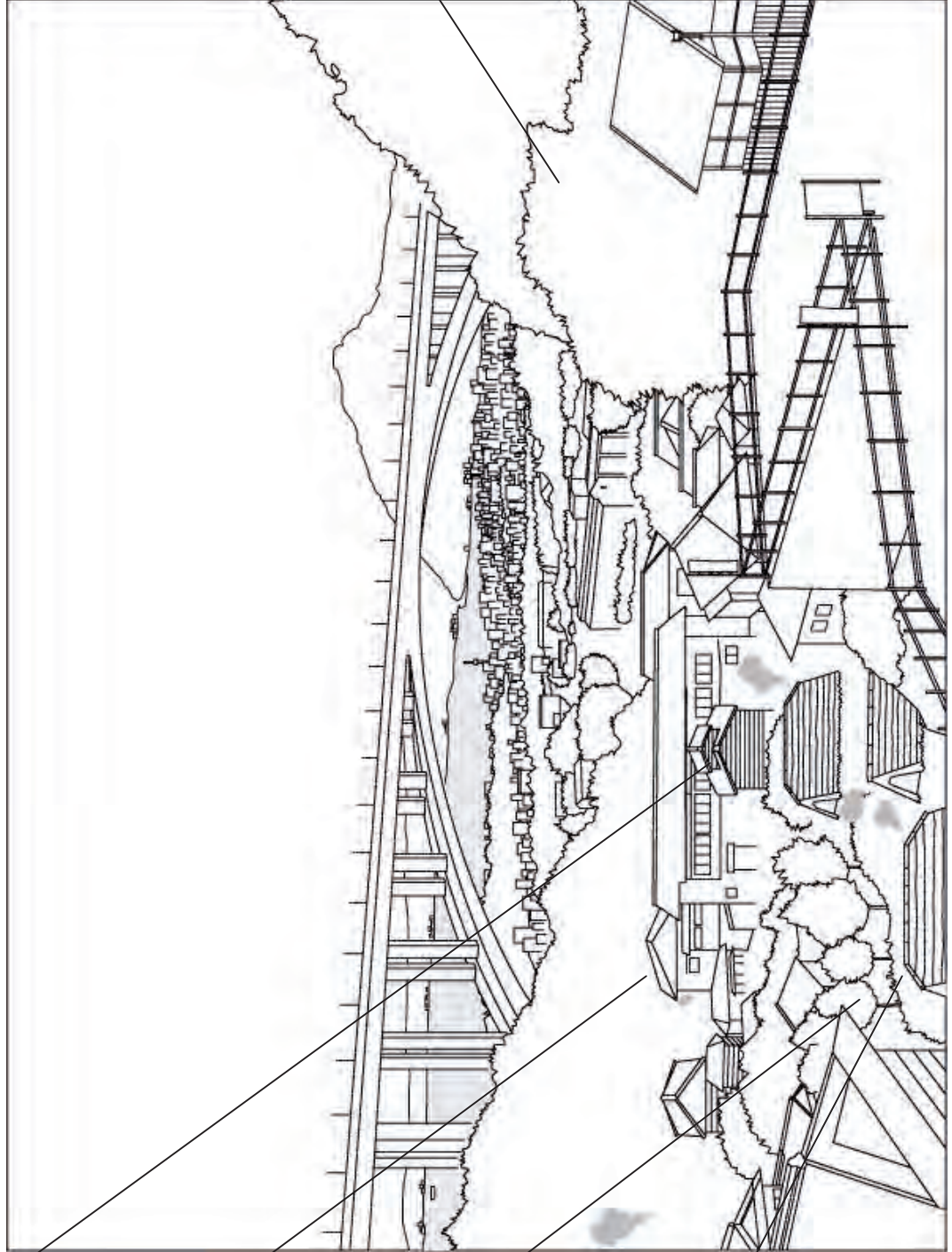
図10.7.32 現状景観 眺望景観 明礬温泉地区

外壁はよろい  
張りに

切妻造、陸屋  
根から寄棟造  
へ変更

電柱、電線の  
減少または削  
除

湯の花小屋の  
増加と、それ  
に伴う湯けむ  
りの増加



地域を囲む緑  
地帯の維持

華やかな看板な  
どを控える

図10.7.33 目指すべき景観像 眺望景観 明礬温泉地区

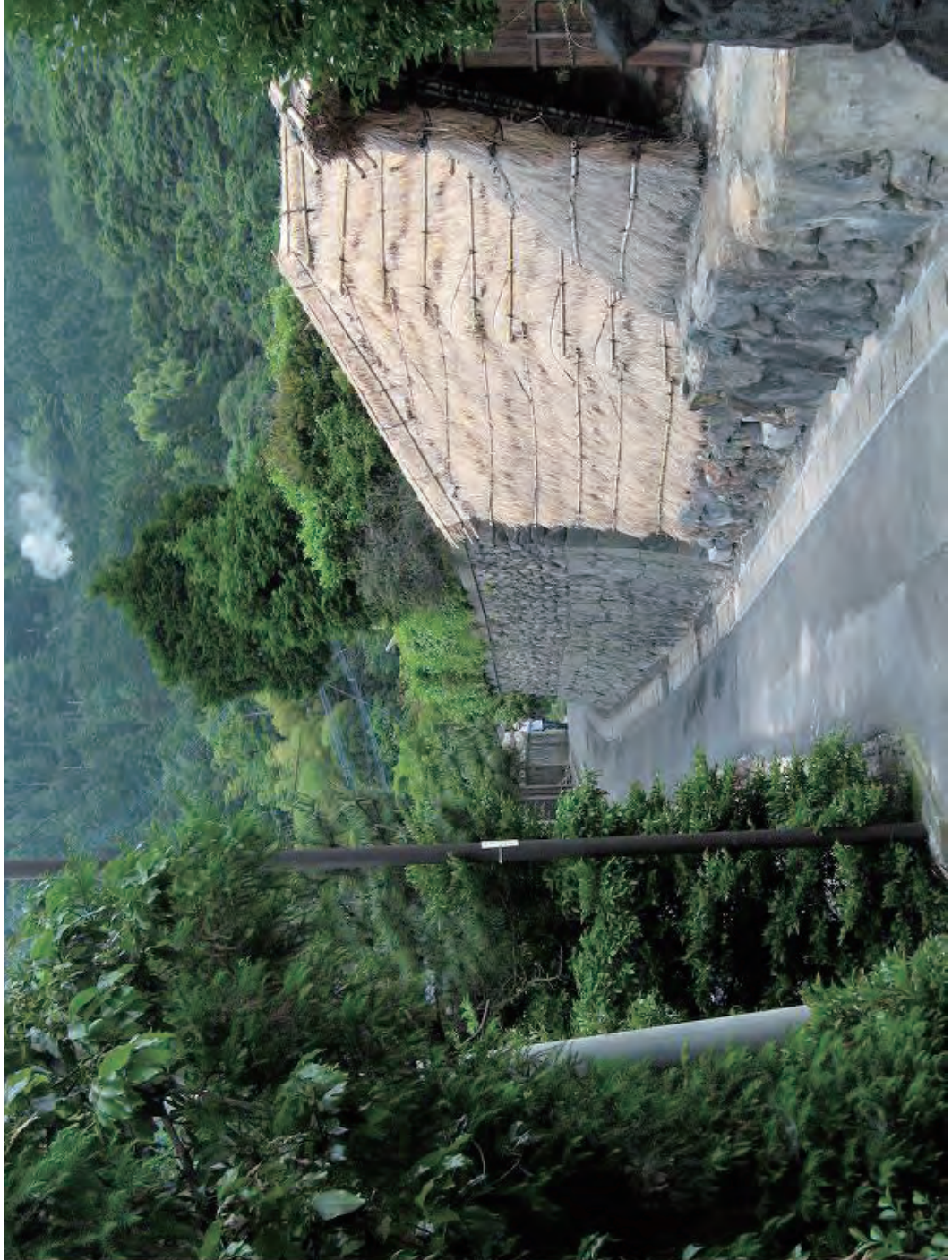
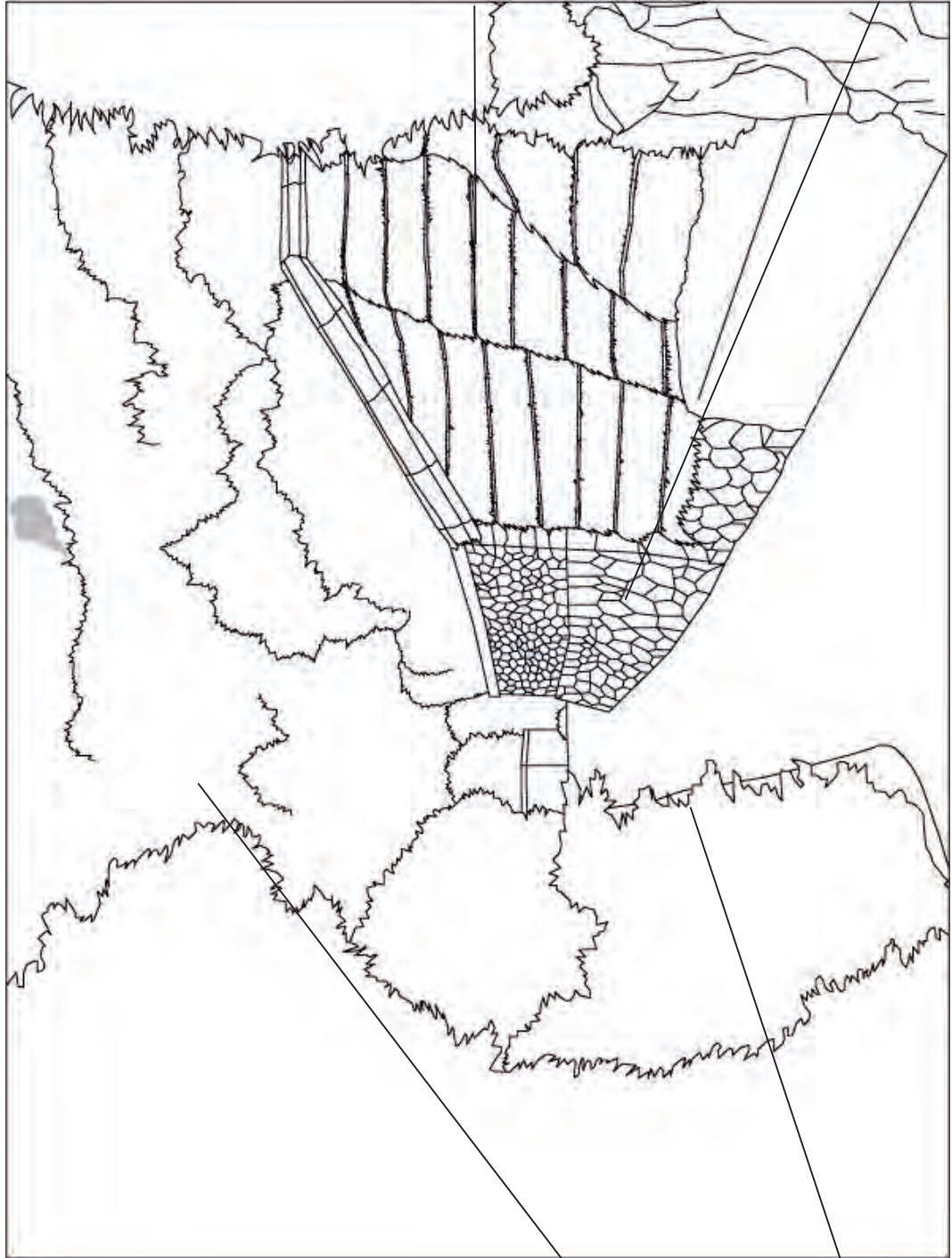


图10.7.34 现状景观 街路景观 明礬温泉地区



湯の花小屋の保存  
または増加

別府石の石垣  
の保存

背景となる緑  
地帯の維持

電柱、電線の  
減少または削  
除

図10.7.35 目指すべき景観像 眺望景観 明礬温泉地区

## 〈参考文献〉 第10章

- 安部巖 1980『ふるさとの思い出写真集 明治・大正・昭和 別府』 国書刊行会  
1987『別府温泉湯治場大辞典』 創思社出版株式会社
- 安部昨男 1957『朝日村史』
- 一関市 2007『一関寺の農村景観保存調査報告書』
- 一遍上人研究会 2004『一遍上人と鉄輪温泉』
- 入江秀利 1995『別府温泉資料集成』
- 大分合同出版社 1986『秘蔵写真集 目で見る 大分百年』
- 小野弘 2007『懐かしの別府物語（今日新聞）』 今日新聞
- 加藤知弘 2000『目で見る 別府・杵築・国東の100年』 郷土出版社
- 河野忠之 2005『湯けむり散歩』 鉄輪愛酎会
- 鉄輪共栄会／愛酎会 『別府鉄輪温泉湯けむり散歩』
- 鉄輪商工連合会 1981『鉄輪温泉テレフォンガイド』  
1993『鉄輪ハローガイド』
- 九州交通新聞社 1958『大分県交通史』
- 志多摩一夫 1973『別府文化史年鑑』 別府郷土文化史研究会  
1977『別府今昔風土記』 別府郷土文化史研究会
- 善隣出版社 1954『ゼンリンの住宅地図別府市』  
1961『ゼンリンの住宅地図別府市』  
1965-1983『ゼンリンの住宅地図別府市』
- ゼンリン 1983-2008『ゼンリンの住宅地図別府市』
- 恒松栖 2000『西暦2000年 別府風土記』 (株) クリエイツ
- 恒松栖編 2007『湯の花の研究』 日新出版
- 平尾昌英 2008『写真で見る 懐かしい昭和の記憶 昭和30年頃の大分県』 アーカイブス出版
- 別府観光協会 1963『別府温泉史』 いずみ書房
- 別府市 1928『別府市史』  
1985『別府市誌』 昭和60年版  
2003『別府市誌』 平成15年版 第1巻～第3巻
- 別府市八湯熊八会 1998『別府温泉名勝 別府原風景・八湯絵はがき』
- 堀藤吉郎 1966『別府温泉歴史略年表』 麻生書店
- 山下靖美 1980『ぶらり別府』 毎日新聞
- 吉本秀俊 1986『湯けむりの里-鉄輪スケッチ-』 鉄輪愛酎会  
『鉄輪温泉パンフレット』 1936  
『別府温泉』（発行者・発行年・出版社不明）  
『湯の町別府 歴史写真館』（<http://www.beppu-navi.jp/syashinkan>）  
（小野氏提供参考資料） 1914『大正4年「別府温泉」』  
1922『大正12年豊後温泉地旅館名簿』  
『明治40年「豊後温泉誌」』